

科学研究費助成事業 研究成果報告書



令和 5 年 5 月 26 日現在

機関番号：12601

研究種目：奨励研究

研究期間：2020～2020

課題番号：20H00887

研究課題名 オーラルヒストリーによる神岡ニュートリノ研究の記録・分析・公開

研究代表者

武長 祐美子 (Takenaga, Yumiko)

東京大学・宇宙線研究所・広報担当特任専門職員

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 440,000 円

研究成果の概要：スーパーカミオカンデの建設、世界初の人工ニュートリノビーム実験であるK2K実験、そしてT2K実験、さらにハイパーカミオカンデ実験の実現へと長きに渡り神岡のニュートリノ実験を精力的に推進して来られた、中村健蔵先生のオーラルヒストリーの採録を行った。インタビューは2021年3月から5月にかけて、4回に渡り、各回約2時間かけてオンラインにて行われた。中村氏本人により内容の確認と裏付けとなる資料の追記を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の物理学研究分野においては、核融合科学研究所や高エネルギー加速器研究機構などが関係者へのインタビューを記録している中、東京大学宇宙線研究所でも30年以上世界を牽引し続けている神岡のニュートリノ研究の歴史をまとめることは喫緊の課題である。今回、スーパーカミオカンデからハイパーカミオカンデまで、構想や立ち上げの時期の経緯や、巨大プロジェクト内の役割分担や運営についてよく知る中村氏の証言を採録できたことは大変重要である。

研究分野：科学広報

キーワード：オーラルヒストリー ニュートリノ スーパーカミオカンデ

1. 研究の目的

カミオカンデ、スーパーカミオカンデと続く日本のニュートリノ研究は、2002 年の小柴昌俊氏、2015 年の梶田隆章氏の 2 名のノーベル賞受賞につながった。カミオカンデ実験が開始されてから 2019 年で 36 年が経ち、関係者の高齢化も進んでいる。世界を牽引するニュートリノ研究にどのような人物が関わり、どのような経緯をたどって発展してきたかの歴史を、関係者へのインタビューによるオーラルヒストリーという手法によって集積し、当該分野ならではの強みについて分析をする。

2. 研究成果

今回の研究では、スーパーカミオカンデの建設、世界初の人工ニュートリノビーム実験である K2K 実験、そして T2K 実験、さらにハイパーカミオカンデ実験の実現へと長きに渡り神岡のニュートリノ実験を精力的に推進して来られた、中村健蔵先生のオーラルヒストリーの記録を行った。インタビューは 2021 年 3 月から 5 月にかけて、4 回に渡り、各回約 2 時間かけてオンラインにて行われた。研究協力者である、一橋大学大学院言語社会研究科 准教授 有賀暢迪氏と武長がインタビュアーを務めた。有賀氏は科学史を専門とし、主に物理学・数理科学史を中心に研究をされているが、2017 年頃よりカミオカンデの資料調査研究を行っている。インタビューの記録は外部業者により文字起こしされた文書に、中村氏本人が確認と裏付けとなる資料を注釈として加えた。今回は中村健蔵先生お一人のオーラルヒストリーを記録するだけに留まったが、今後はカミオカンデ実験に関わる数人の方のオーラルヒストリーを記録し、冊子として公表したいと考えている。

主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

—

研究組織（研究協力者）

氏名	ローマ字氏名
有賀 暢迪	(Ariga Nobumichi)